

令和7年度 自己評価計画書における中間報告

|  |       |  |  |  |                | 石川県立内灘高等学校   |
|--|-------|--|--|--|----------------|--|
| 重点目標   | 具体的取組 | 主担当  | 評価の観点  | 実施状況の達成度判断基準   | 7月集計結果         | 分析と課題  |
| <sup>1</sup> 分かる授業の実践と主体性の育成<br>ICTの効果的な活用と協働的な学びの深化を通して、生徒一人ひとりの基礎学力向上及び主体的な学びを促進し、課題を見つけ解決する力を育むことで個々の進路実現につなげていく。 | ①     | 教務課<br>進路指導課   | 【満足度指標】<br>授業等においてChromeBookやiPad等の情報機器が効果的に活用され、学習意欲の喚起につながっている。  | 「授業等において情報機器が効果的に活用されて学習意欲が高まった」と回答する生徒の割合が<br>A 90%以上<br>B 80%～89%<br>C 70%～79%<br>D 70%未満        | A評価<br>(93.8%) | 1学期の授業においては生徒にはおおむね好意的にとらえられている。今後も情報機器等を使用した授業実践を継続し、残り6.2%の生徒で情報機器の使用の際に困っていたり支援を必要としていたりしないか、職員会議などで情報共有を図りながら限りなく100%を目指したい。                         |
|  | ②     |  | 【満足度指標】<br>学力向上のために、授業の目標やねらいを明確にして、内容の説明や教材が工夫されており分かる授業が展開されている。 | 「授業の説明や教材が工夫されており、分かりやすい授業である」と回答する生徒の割合が<br>A 90%以上<br>B 80%～89%<br>C 70%～79%<br>D 70%未満          | A評価<br>(90.7%) | 教材や説明の仕方を常に工夫する意識は広まっている。今後学期が進むにつれて学ぶことの難易度が上がっていくが、生徒の理解度が落ちないように、授業のねらい・流れの明確化や最後のふりかえりなど学習のメタ認知を進めながら生徒の理解を手助けしていきたい。                                |
|  | ③     |  | 【努力指標】<br>生徒がICT機器を進路学習・総合的な探究の時間等に活用し、個々に応じた進路学習を行っている。           | 「ICT機器(Chromebook)を利用して自身の進路学習・総合的な探究の時間の学習ができている」と回答する生徒の割合が<br>A 80%以上<br>B 70%～79%<br>C 60%～69% | A評価<br>(86.9%) | 総合的な探究の時間においては、生徒一人ひとりの進路学習や課題研究に応じて、Chromebookを活用しながら情報収集や成果物の作成、発表を行っている。今後は、生徒が自ら目標を明確にしたうえで、その達成手段としてChromebookを主体的かつ積極的に活用できるよう、授業の在り方をさらに工夫していきたい。 |
|  | ④     |  | 【努力指標】<br>生徒個々の学習状況の把握や学力定着を図るために適切な質・量の課題を課することができる。              | 「生徒個々の学習状況を把握し、学力定着を図る課題を課している」と回答する教員の割合が<br>A 80%以上<br>B 70%～79%<br>C 60%～69%<br>D 60%未満         | A評価<br>(94.7%) | 多様な生徒個々の学習状況を把握するため、定期考査のみの評価にならないようにし、生徒の学習内容定着の機会として、課題や小テストを含めた授業づくりを工夫している。これからも引き続き実践していく。  |
|  | ⑤     |  | 【成果指標】<br>進路ガイダンスや進路講話等を利用して、1年、2年における進学又は就職の希望未定者数を抑制する。          | 「進路希望未定者の割合を1年は10%以下、2年は5%以下とする」ことについて<br>A いずれの目標も達成できた<br>B 片方の目標を達成できた<br>C どちらの目標も達成できなかった     | —              | 4月の調査において、2年生75名中10名（13%）が進路希望未定であった。1年生については、9月に調査を実施する予定である。今後は、未決定の生徒に対し、進路行事や探究活動を通じて自己の在り方や生き方について考える機会を与え、将来の目標を明確にできるよう指導していく。                    |
|  | ⑥     |  | 【成果指標】<br>個に応じた進路指導を行い、本人の進路実現達成者90%とする。                           | 進学・就職の進路実現達成者の割合を90%とする<br>A 90%以上<br>B 80%～89%<br>C 70%～79%<br>D 70%未満                            | —              | —  |
| 学校関係者評価委員会の評価  |       | 授業においてICT機器が効果的に活用され、生徒の学習意欲の喚起につながっている。これからの社会でAI活用のスキルを見つけることは必要であるため、授業での生徒の積極的なAI活用を望む。「AIにできること」と「人にしかできないこと」とを生徒が判断する力を育てる必要がある。 |  |  |                |  |
| 学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方法  |       | 今後もICT機器を活用した授業力の向上を目指し、教職員の情報共有をはかる。また、教職員のAI活用の推進・周知をどう図るかを考え、校内研修の実施を検討していく。  |  |  |                |  |

|                             |  |   |  |   |   | 石川県立内灘高等学校   |  |  |
|-----------------------------|--|---|--|---|---|--|--|--|
| 重点目標                        |  | 具体的取組   |  | 主担当   | 評価の観点   | 実施状況の達成度判断基準   | 7月集計結果   | 分析と課題  |
| 2                           | <b>挨拶・人間関係づくりなどに留意した生徒指導や教育相談の実践</b><br>生徒の基本的生活習慣の確立を図り、規範意識を高めるとともに、18歳成人に向けて自己決定力を育む。 | ①   | 普段の挨拶や学校での人間関係の構築に向け、具体的な態度を掲げることによって生徒指導の指針とする。また学習以外の用途でのスマートフォン等使用時間について、生徒に主体的に考えさせ、望ましい人間関係を構築する。 | 生徒課<br>保健相談課<br>総務課<br>学年   | 【満足度指標】<br>生徒がいじめのない安心できる学校生活を送ることができる。   | 「学校はいじめに対しての取組や指導をしっかりと行っている」と回答する生徒の割合が<br>A 90％以上<br>B 80％～89％<br>C 70％～79％<br>D 70％未満                             | B評価<br>(87.7％)   | 本校のいじめ防止対策が生徒全体の理解を得るため、日頃より生徒が安心して安全な学校である事を実感できるよう、教員間で連携して観察、声かけ等を行い、いじめ重大事態抑止につなげたい。   |
|                             |  | 【努力目標】<br>家庭において、スマートフォン等の使用ルールについて話し合う機会を作る。 |  |   | 「家庭において、半年に1度、スマートフォン等の使用ルールについて話し合い、SNSトラブル回避を行った」と回答する保護者の割合が<br>A 60％以上<br>B 50％～59％<br>C 40％～49％<br>D 40％未満 | B評価<br>(51.2％)   |  |  |
|                             |  | ③   |  |   | 【努力指標】<br>課題探究を将来につなげるテーマとしてとらえている。   |  | 課題探究について「自分の将来につなげるテーマを考えた」とする生徒の割合が<br>A 70％以上<br>B 60％～69％<br>C 50％～59％<br>D 50％未満 | —  |
|                             |  | ④   |  |   | 【満足度指標】<br>生徒は本校に進学して良かった、保護者は進学させて良かったという満足度が一層向上している。   | 「本校に進学して（させて）良かった」と回答する生徒・保護者の合計の割合が<br>A 80％以上<br>B 70％～79％<br>C 60％～69％<br>D 60％未満                                 | A評価<br>生徒84.3％<br>保護者95.4％   |  |
| 学校関係者評価委員会の評価               |  |   |  | 相談したくてもためらってしまう生徒への丁寧なケアが必要である。日常的に相談しやすい雰囲気心をかけてほしい。連絡がつかない保護者に対しては、学校携帯やメールの効果的な活用を検討してはどうか。学校の困り感などをPTAと情報共有し、連携していくのもよいのではないかな。 |   |  |  |  |
|                             |  |   |  | 学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方法   |   |  |  | 相談をためらう生徒に対しては、教員が生徒と日頃から話をしやすい関係関係を構築すること、生徒の何らかのサインに気づくこと、生徒の状況を気遣う言葉がけを行うなど、教員間で連携し対応していく。「保護者の得意なこと」と「学校がやってほしいこと」を繋ぎ、学校とPTAとの連携・協力を強めていきたい。 |
| 3                           | <b>外部との連携と社会参画意識の醸成</b><br>同窓会や地域との連携や情報発信に努め、地域とともにある学校を目指す。                            | ①   | 積極的な情報の発信と収集に努め、進学や就職した卒業生や地域の教育資源等を利活用して、生徒の社会参画意識を高める。   | 総務課   | 【努力目標】<br>同窓会や地域との連携に基づくイベントや行事を通して、生徒が地域に目を向け、社会参画意識を高める。  | 「同窓会や地域との連携を実感した」と回答する生徒の割合が<br>A 70％以上<br>B 60％～69％<br>C 50％～59％<br>D 50％未満   | A評価<br>(83.6％)   | 同窓生の協力のもと、年に2回、社会人講話を行っている。事後の生徒アンケートにおいても好意的な回答が多く、今後も継続して講話を実施していきたい。また今年度の40周年式典を機に講師の更なる充実も図っていきたい。  |
|                             |  | ②   |  |   |   |  |  |  |
|                             |  | ②   |  |   | 【努力目標】<br>年2回の避難訓練に加え、保護者や地域住民と連携した防災体験学習を実施し、生徒の防災意識と実践力を向上させる。  | 「定期的な訓練と情報共有で安全な学校環境の構築に努め、防災教育に貢献した」と回答する教員の割合が<br>A 90％以上<br>B 80％～89％<br>C 70％～79％<br>D 70％未満                     | A評価<br>(94.7％)   | 今年度は防災教育強化の観点からも避難訓練において、実際の授業で災害が起こったケースを想定して、訓練を行った。訓練だけではなく、各教員の連携強化、点呼や確認等の強化に引き続き努めていきたい。   |
|                             |  | ③   |  |   | 【努力指標】<br>ホームページやお知らせの充実等により、各ニーズに応じた学校の取組についての情報発信を行う。   | 「情報発信が効果的にされており、学校の教育活動が理解できる」と回答する保護者の割合が<br>A 90％以上<br>B 80％～89％<br>C 70％～79％<br>D 70％未満                           |  |  |
|                             |  | ④   |  |   | 【満足度指標】<br>生徒は本校に進学して良かった、保護者は進学させて良かったと満足度を一層向上する。   | 「本校に進学して良かった」と回答する生徒・保護者が<br>A 80％以上<br>B 70％～79％<br>C 60％～69％<br>D 60％未満  |  |  |
|                             |  | 学校関係者評価委員会の評価                                 |  |   |   | 多くの生徒が学校行事の中で、地域や同窓会と連携をとっていることを実感している。生徒の地域参画の機運を継続して育んでほしい。非営利活動のポスターは郵便局の掲示板利用が可能なので、学校の広報活動として利用してほしい。           |  |  |
| 学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方法 |  |   |  |   |   |  |  |  |
| 学校関係者評価委員会の評価               |  |   |  | 学校の取組についての情報発信として、HPの充実、近隣の郵便局へのポスター掲示など、広報活動をさらに工夫し、本校の魅力を発信していきたい。  |   |  |  |  |
|                             |  |   |  |   |   |  |  |  |
| 4                           | <b>教職員の多忙化改善</b><br>組織的な連携とICT活用で業務効率化を図り、教員が創造的な教育活動に注力できる環境を整備する。                      | ①   | 教員自らが働き方を見直し、担当業務においてタイムマネジメント意識を高め、効率的な業務と協力体制の構築により、時間外勤務の縮減につなげる。                                   | 教頭  | 【成果指標】<br>各自が効率よく業務分担を図り、時間外勤務の縮減に努める。  | 「担当業務においてタイムマネジメント意識を高め、効率的な業務と協力体制の構築により、時間外勤務の縮減につながった」と回答する教員の割合が<br>A 80％以上<br>B 70％～79％<br>C 60％～69％<br>D 60％未満 | A評価<br>(100％)  | 全職員が肯定的な回答をしている。各自、時間外勤務の削減に向け計画的に業務に取り組んでいる。教員数が少ないため、主任に業務が偏っていることが少し見られるので、課内での業務内容の共通理科と適切な業務分担が必要である。                                       |
|                             |  | ②   |  |   | 【努力指標】<br>各課主任や学年主任が担当課において、業務の効率化に積極的に取り組んでいる。   | 「デジタル技術を活用し、業務の効率化を図ることについて積極的に取り組んでいる」と回答する主任の割合が<br>A 90％以上<br>B 80％～89％<br>C 70％～79％<br>D 70％未満                   |  |  |
| 学校関係者評価委員会の評価               |  |   |  | 教職員の多忙化改善をさらに推進していく上で、AIを活用してはどうか。  |   |  |  |  |
|                             |  |   |  | 学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方法   |   |  |  | 教職員のAI活用は進んでいるが、教職員への周知・共有をどう図るか、また校内研修をどう行っていくか検討していく。  |